

## 大会コントローラー報告

大会コントローラー

桜井 太郎

インカレに参加された皆さん、今年の大会はいかがだったでしょうか？輸送の不便によりリレー競技のスタート時間を遅らせるなどいくつかの問題も生じましたが、天候にも恵まれ全体としては非常に素晴らしい大会であったと私は思います。インカレを目標として準備を重ねてきた選手の皆さん、様々な悪条件にもめげずに素晴らしい舞台を提供してくれたインカレ実行委員会の皆さんには大会コントローラーとして感謝します。

さて、日本学連では現在とても難しい問題を抱えています。それは学連加盟者数の減少であり、それに伴うインカレ参加者数の減少です。

平成4年度には2800人を超えていた加盟者数が、平成9年度には1900人を割る状況となっています。インカレ参加者数は加盟者数ほどの減少はないですが、平成4年度の1468人と比べると300人以上減っています。加盟者数の減少が即ち学連の衰退ということではありませんが、ほとんどの人が大学からオリエンテーリングを始める日本において、加盟者数の減少は日本のオリエンテーリング界の今後にも影響してくる問題であります。

また、人数の減少はそれ自体が問題であるとともに財政面から見ても大きな問題となります。加盟員やインカレ参加者が減れば人数に比例して収入は減りますが、支出は人数に比例して減らすことはできません。例えば、インカレの支出で大きな割合を占める地図作成費は、参加者が減っても地図の範囲が変わらなければ減らすことができません。学連加盟費の値上げにより収入を確保している日本学連ですが、今後のことを考えると余裕がある状況ではありません。

今回のインカレではこのような状況をふまえて、「お金は節約する。しかし、多くの人にインカレに参加してもらい、来年のインカレにも参加したいという気持ちを持って帰ってもらうということを念頭に準備を進めることになりました。

全体会議の回数を減らしたり、試走会の回数を減らすなどして支出の削減に努力する一方、新インカレロゴの採用やインカレ新聞の発行など参加者を増やすための試みを行いました。これらの努力は高く評価できると思います。しかし一方では、適切な対応を取ることができずに支出を増やしたり、参加者に不快な思いをさせた点も残念ながら沢山ありました。

そのような事態が生じた一つの原因としては、実行委員会及びコントローラーである私の経験不足が挙げられます。過去のインカレの資料が引き継がれているとはいえ、実際に経験して初めてわかる点が多くあり、対応が後手に回ってしまったことが何度もありました。けれども、適切な対応が取れなかったより大きな原因としては、今後のインカレに対する明確なビジョンの欠如が挙げられると思います。参加者数が減少してきている現在、従来と同じ方法で同じ水準のインカレを開催してはやがて破綻をきたすでしょう。

今後のインカレはどうあるべきなのか、それとも質の低下、規模の縮小も仕方ないのか？などなど。インカレ実行委員会が頼るべき指針としてこれらインカレのビジョンを早急に明確にする必要があるでしょう。

幹事会・理事会・技術委員会にはこの件についてリーダーシップを発揮することを要望したいと思います。また、一般の加盟因果意見を言うことができる機会は少ないかもしれませんが、インカレ、そして日本学連がこのような問題を抱えているという認識だけは全ての加盟印の人に共有してもらいたいと思います。

以上